

関係各位

公益財団法人 日本バスケットボール協会
審判委員会

バスケットボール競技規則変更点の概略

国際バスケットボール連盟(F I B A : Fédération Internationale de Basketball)のテクニカル・コミッションは、2013年6月20日、21日の2日間にわたりスイスのジュネーヴにあるFIBA本部で開催されたFIBAセントラル・ボード(FIBA中央委員会)に、2014年10月1日以降(2014年男女世界選手権大会以降)に施行される予定の新しい競技規則の最終原案を提出した。

FIBAセントラル・ボードは、その原案を採択・承認し、2014年10月1日より施行される規則として、FIBAのホームページを通じて公表した。

FIBAは、これらの変更点を含む新しい競技規則については、印刷物としての競技規則書を「Official Basketball Rules 2014」として2014年夏までに刊行することをすでに公表済みである。

変更点の主な概略は、以下の通りである。

1. ノー・チャージ・セミサークル・ルール :

ノー・チャージ・セミサークルのラインは、**ノー・チャージ・セミサークル・エリアに含まれることになった。**

すなわち、ノー・チャージ・セミサークルのラインに触れている防御側プレイヤーは、**ノー・チャージ・セミサークル・エリア内にいるものとみなされることになった。**

したがって、防御側プレイヤーがノー・チャージ・セミサークルの外側にいても、その防御側プレイヤーがノー・チャージ・セミサークルのラインに触れている場合は、ノー・チャージ・セミサークル・ルールの規定が適用されることになった。

これは、ショットやパスをするためにジャンプした攻撃側プレイヤーをより保護するための変更である。

※ 「片足だけがラインに触れている場合」など、変更に伴う細かい点における規定については、FIBAからの解説の発表を待つことになる。

2. タイム・アウト :

第4ピリオドの最後の2分間には、1チームがタイム・アウトを3回とることはできなくなった。

すなわち、「1チームは、後半(第3ピリオドと第4ピリオドを通じて)に**3回**のタイム・アウトをとることができる」が、**第4ピリオドの最後の2分間にはそのチームにタイム・アウトが3回残っていたとしても、それぞれのチームは2回ずつまでしかタイム・アウトが認められなくなった。**

これは、ゲーム終了直前における過度の回数のタイム・アウトによるゲームのたび重なる中断を避けるための変更である。

※ 1チームが「後半(第3ピリオドと第4ピリオドを通じて)に**3回**のタイム・アウトをとることができる」という本来の規則についての変更はない。

※ 「前半(第1ピリオドと第2ピリオドを通じて)に2回」、「各延長時限には1回ずつ」のタイム・アウトをとることができることについては規則の変更はない。

3. 24秒ルール：

フィールド・ゴールあるいは最後のフリースローのボールがリングに触れたのち、**シューター側チームのプレイヤー**がその**リバウンドのボールを取った場合は**、24秒計は**14秒**からはかり始められることになった。

これは、ゲームのテンポ・アップやスピード・アップを図り、攻撃やショットの機会をより増やすための変更である。

- ※ **器具(24秒計)の仕様に変更が求められているので注意すること。**
- ※ 「ショットによってボールのコントロールが終わっても、24秒の制限が終わらないうち(ボールがリングに触れなかったとき)にふたたび同じチームがそのボールをコントロールした場合は、24秒計は止めないしリセットもしない」ことについては変更はない。
- ※ 「パスされたボールがリングに触れた場合」など、変更に伴う細かい点における規定は、FIBAからの解説の発表を待つことになる。

4. テクニカル・ファウル／その①：

プレイヤーに科されるものでもコーチに科されるものでも、テクニカル・ファウルの罰則は「相手チームに**1個のフリースロー**とスロー・インを与える」ことになった。

そのほかの点については下記5. に述べられたもの以外、特に変更はない。

これは、テクニカル・ファウルとアンスポーツマンライク・ファウルを比較したとき、“からだの触れ合いのないテクニカル・ファウル”にも“からだの触れ合いによるアンスポーツマンライク・ファウル”と同様に「相手チームに**2個のフリースロー**とスロー・インを与える」ということが罰則としては重すぎるのではないかという考え方から、これらのファウルによる罰則の重さのバランスを取るための変更である。

- ※ 変更になるのは**フリースローの数**だけである。

5. テクニカル・ファウル／その②：

1プレイヤーにテクニカル・ファウルが**2回**記録されたときは、そのプレイヤーは**失格・退場**になることになった。

これは、1プレイヤーが一度テクニカル・ファウルを宣せられているにもかかわらず、ふたたびスポーツマンシップとフェア・プレイの精神を逸脱するふるまいをしてゲームのクリーンな雰囲気損なった場合に、そのプレイヤーにより重い罰則を科すための変更である。

- ※ テクニカル・ファウルとアンスポーツマンライク・ファウルは**種類の異なる別個のファウル**として考えるので、1プレイヤーにテクニカル・ファウルとアンスポーツマンライク・ファウルが1回ずつ記録されても、それだけでは失格・退場になることはない。
- ※ この規定によってプレイヤーが失格・退場となった場合は、罰則はテクニカル・ファウルの罰則だけを適用する。したがって、そのうえさらにディスクォリファイング・ファウルの罰則が適用されることはない。
- ※ コーチに記録されるテクニカル・ファウルの回数によるコーチの失格・退場となる条件については変更はない。